

政府主催 平成 29 年度情報化月間記念式典を開催

情報化促進に貢献した個人・企業等を表彰

政府主催の「平成29年度情報化月間記念式典」が10月2日、東京・中央区の東京証券会館で開催された。

わが国の健全な情報化を推進するために、通商産業省（現・経済産業省）をはじめとする関係省庁が連携し、1972年に始まった情報化月間は、今年で46年目。記念式典には、経済産業省から平木大作大臣政務官、総務省から富永昌彦総務審議官、文部科学省から宮川典子大臣政務官、国土交通省から高橋克法大臣政務官が出席した。

表彰に先立ち、平木大作経済産業大臣政務官は次のように挨拶した。

「AIの活用やIoTといった新しい技術トレンドは、第四次産業革命とも言われる変化を社会にもたらしつつあります。政府としては、モノとモノ、人と機械、データ、技術、組織など、さまざまなモノがつながる、「Connected Industries」というコンセプトを掲げ、推進しております。日本の強みは製造現場などにおいて、質の高いリアルデータが蓄積されていることですが、現状では、十分に活かされているとは言えない状況です。

「Connected Industries」の実現で、消費者データの活用による、新たなソリューションビジネスの創出や、モノづくりの技能のデータ化による後世への伝承が可能になります。本表彰される皆様方を端として、わが国の

情報化に大きな足跡を残す、個人や企業、団体が続くことを願ってやみません」

続いて情報化促進貢献表彰が行われ、受賞者を代表して、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会参与・金修氏が、「進歩の著しい情報技術が企業活動に直接的な影響を

与える時代となるなか、IoTの活用は、これからの情報化にとって、非常に重要な要素であります。現在、情報化に関わっている方、すべての方にエールを送らせていただきます」と謝辞を述べた。

この後、U-22プログラミングコンテストの入賞者の発表と表彰が行われ、最後に経済産業省商務情報政策局情報技術利用促進課長中野剛志氏による「Connected Industriesに必要なIT人材政策」の講演で幕を閉じた。



挨拶する平木大作
経済産業大臣政務官